

「五つのパンと二匹の魚」

2014年08月27日

マルコによる福音書6章38節～44節。イエスは言われた。「パンは幾つあるのか。見て来なさい。」弟子たちは確かめて来て、言った。「五つあります。それに魚が二匹です。」そこで、イエスは弟子たちに、皆を組に分けて、青草の上に座らせるようにお命じになった。人々は、百人、五十人ずつまとまって腰を下ろした。イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆に分配された。すべての人が食べて満腹した。そして、パンの屑と魚の残りを集めると、十二の籠にいっぱいになった。パンを食べた人は男が五千人であった。

パンと魚の奇跡は、四つの福音書に5回も記されている。弟子たちには、極めて印象に残る出来事であったに違いない。主イエスの周りには、飢え渴いた民衆が群がっていた。弟子たちも、神の国の宣教に遣わされ、大きな成果を得て、満足していた。この日も宣教から帰って来て、喜びの報告をした。しかし、食事をする暇もないほど疲れ切っていた。主イエスは「しばらく休むがよい」と言われ、弟子たちは休もうと、舟に乗って、人里離れた所に逃れた。すると、飼い主のいない羊のような民衆は、先回りして対岸に駆けつけていた。主イエスは、彼らを憐れみ、また教え始めた。弟子たちは、時間もだいぶ経ちました、解散させてください、自分たちで食べ物を買に行きましょうと進言した。民衆に同情しているようだが、彼らの本心は休みたかったのである。主イエスは「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と言われる。弟子たちは驚いて「わたしたちが200デナリオン(200日分の賃金)ものパンを買って来て、みんなに食べさせるのですか」、疲れ切ってお金もない私たちに、そんなことはできませんと不満いっぱい回答了。確かめてみると、持ち合わせはパン五つ、魚二匹だけであることが分かった。主イエスは、青草の上に、組に分けて座らせた。そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、弟子たちに配らせた。すると、人々は食べて満腹し、残りを集めると12の籠にいっぱいになった。この時、男だけで五千人もいた。

どのようなことだったのだろうか。当時は、食堂もコンビニもないので、外出する時は、弁当を持って出かけた。主イエスの語る、共に生きる「神の国」の教えに感激して、持って来た弁当を惜しげもなく分かち合った。金芝河が「飯はみんなと一緒に食べるもの 飯が天です 飯が口に入るとき 天を体に迎えます 飯は天です ああ 飯は みんながたがいに分かち食べるもの」と歌ったように、皆で、神を体に迎え入れたのではないか。この喜びは何にも勝り、福音書に5回も書き記して、後世に伝えた。

地球上の人口は、爆発的に増えて、食料の奪い合いが戦争の火種になっている。食べ物は自然からの恩恵である。神からの恵みと言っていい。神を信じるとは恵みを共有することである。これからの世界に、恵みを共有する地平が開かれるであろうか。新自由主義という弱肉強食に、主イエスは「共に生きよ」という対極を示していることは確かである。

この奇跡物語によって、私は牧師になる決心をした。五つのパンと二匹の魚しか持たないような私が牧師になることは、五千人に食べ物を与えるような途轍もないことである。しかし、献げてみよう。もしかして、主イエスの祝福に与り、牧師として用いられるのではないか。主イエスは、小さなものでも見捨てられず、希望につなげてくださる。